

「皇室典範に関する有識者会議 報告書」（平成17年11月24日）の概要

1. 問題の所在

現在の皇室の構成では、早晩、皇位継承資格者が不在となるおそれがあり、安定的な皇位継承を可能にする制度を早急に構築することが必要。

2. 基本的な視点

象徴天皇にふさわしい継承制度の在り方につき、①国民の理解と支持を得られるものであること、②伝統を踏まえたものであること、③制度として安定したものであることの3つの視点から検討。

3. 安定的で望ましい皇位継承のための方策（提言）

(1) 皇位継承資格

- 女子・女系への拡大は、社会の変化の中で象徴天皇制を安定的に維持する上で、大きな意義。
- 女性天皇・女性皇族の配偶者確保には、適切な環境整備が必要。

(2) 皇位継承順位

- 「長子優先」又は「兄弟姉妹間男子優先」が適当。
- その中では、幼少の頃から、将来の天皇として国民が期待を込めて成長を見守ることができるような安定性という意味で、出生順に順位が決まる長子優先が適当。

(3) 皇族の範囲

- 継承資格の拡大に伴い、女子が婚姻後も皇族にとどまることが必要。
- 皇位継承資格者の存在を安定的に確保するため、世数限定とせず、永世皇族制を前提とし、皇籍離脱制度の弾力的運用により規模を調整することが適当。